

## リカレント学習講座を通じての地域貢献 —看護師のキャリアラダーと看護連携型ユニフィケーションからの分析—

仲口 路子, 三浦 康代, 寺谷 愉利子, 田中 小百合, 大城 知恵,  
西川 秋子, 川村 晃右, 那須 さとみ, 村上 久恵

看護学部 看護学科

### 1. 研究目的

リカレント学習講座は看護学部の地域貢献活動の一環として学部開設当初より開講してきた。受講対象は病院等に勤務する看護師で、臨床における看護研究をサポートするプログラムを展開してきている。毎年度の参加者は少しずつ増加してきている。そこで本研究では、まず臨床で活躍する看護師にとっての臨床看護研究の意味を再考し、次いで「看護連携型ユニフィケーション」の観点から本講座の役割を問い直すことで、今後のリカレント講座の展開に検討を加える。

### 2. 方法

2014年度開催のリカレント学習講座で行った参加者対象のアンケート（21人）と文献による検討。

### 3. 結果および考察

アンケートの結果から、参加者の受講動機として看護研究への不安が多く挙げられていた。これは、看護師のキャリアラダーの構成要素（達成目標）として「臨床看護研究を遂行する能力」がますます重要視されてきていることが大きく影響していると考えられる。したがって今後のリカレント学習講座の展開も大変重要である。またこのような関わりは「臨床と大学の協働」として、看護連携型ユニフィケーションの観点からも、さらに相互の関係性を深めることができるようなプログラムの開発が必要である。

## 看護系大学生の健康とライフスタイルに関する研究

藤田 智恵子

看護学部 成人・老年看護学講座

【目的】看護系大学生に対する調査から日常保健行動に影響を与える要因について検討し、大学教育における健康教育の在り方を検討する基礎資料を作成すること。

【方法】N市の看護系大学学部生30名を対象に2014年2～4月に調査実施。調査前に所属大学研究倫理委員会の承認を得、対象者には十分な説明を行い文書で同意を得た。

【結果】対象の平均年齢は20.5歳。主観的睡眠良好・不良2群間の保健行動得点比較では、睡眠不良群の得点が有意に低かった（ $p < 0.05$ ）。カフェイン飲料良く飲む、飲まない2群間比較では、カフェインを良く飲む群の得点が有意に低かった（ $p < 0.05$ ）。特性不安得点は49.8、状態不安得点は41.4であった。

【結論】睡眠不良群では保健行動得点が低かったが、平均睡眠時間は睡眠良好群が6.4時間、不良群が5.4時間であり有意差は認められなかったことから、熟睡感が得られる環境調整の必要があると考えられた。清水らの大学生を対象に行った研究（特性不安得点45.4、状態不安得点平常時42.0）と比較すると、調査対象者群の特性不安が高かったことから、特性不安の高い対象者に合わせたストレスマネジメント教育の必要性が示唆された。